

# トビウオ通信 (R8 第2号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

## 《令和7年漁期前半(8月～12月)の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和7年漁期前半(令和7年8月～12月)の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。1隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業(かけまわし)」と2隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業(2そうびき)」の動向について紹介します。

### 小型機船底びき網漁業(かけまわし)

#### 1隻当り漁獲量は平年を下回る

島根県の小型機船底びき網漁業(かけまわし)31隻の令和7年漁期前半(令和7年9月1日～12月31日)の総漁獲量は1,162トン、総水揚金額は7億601万円でした。1隻当り漁獲量(以下、CPUE)は37トンで平年を15%下回りましたが、水揚金額は2,277万円です。平年並みでした(平年値:44トン、2,251万円)。

#### ソウハチ、ムシガレイとも平年を下回る

主要魚種であるソウハチのCPUEは4.2トンで、前年を上回りましたが、平年を下回りました(前年の1.1倍、平年の7割)。ムシガレイのCPUEは1.3トンで、前年を上回りましたが、平年を下回り、低調な水揚げが続いています(前年の1.2倍、平年の9割)。メイタガレイのCPUEは0.1トンで、前年の1.2倍、平年の2割の水揚げでした。

#### ケンサキイカは低調、ヤリイカは好調

ケンサキイカのCPUEは0.4トンで、前年を上回りましたが、平年を下回り、低調な水揚げが続いています(前年の7.6倍、平年の6割)。ヤリイカのCPUEは7.1トンで、前年・平年を上回る好調な水揚げでした(前年の1.5倍、平年の2.4倍)。

#### アカムツは平年並み、ニギス、アンコウ類、キダイは平年を下回る

アカムツのCPUEは2.2トンで、前年を上回りましたが、平年並みの水揚げでした(前年の1.3倍、平年の1.0倍)。ニギスのCPUEは3.1トンで、前年の5割、平年の8割と低調な水揚げでした。アンコウ類のCPUEは2.8トンで、前年の7割、平年の5割の水揚げとなり、3期続けての減少となりました。キダイのCPUEは2.1トンで、前年の1.1倍、平年の7割でした。

その他、アナゴ類のCPUEは3.9トンで、前年・平年を上回りました(前年の1.5倍、平年の1.1倍)。マダラのCPUEは0.7トンで、前年・平年を下回る水揚げでした(前年の7割、平年の4割)。

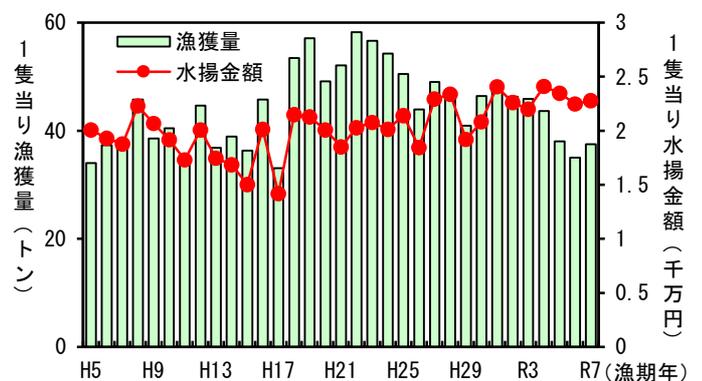


図1 小型機船底びき網漁業における1隻当り漁獲量と水揚金額の動向(各漁期年の9月～12月)

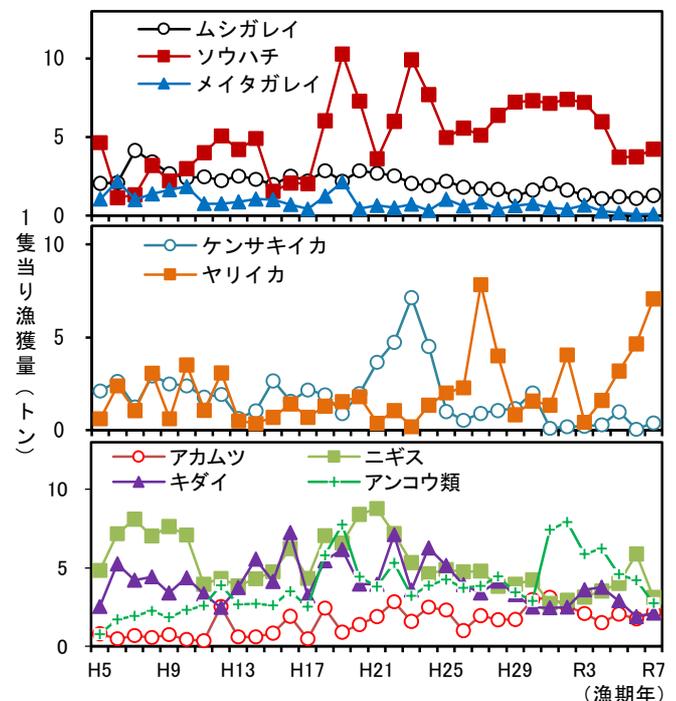


図2 小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(各漁期年の9月～12月)

#### <文中の語句説明>

- ☞ 平年は、過去10年[平成27年漁期～令和6年漁期の漁期前半(8月～12月)]の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。

## 沖合底びき網漁業 (2 そうびき)

### 1 統当り漁獲量は平年並み

浜田漁港を根拠地とする沖合底びき網漁業(2 そうびき)3統(6隻)の令和7年漁期前半(令和7年8月16日~12月31日)の総漁獲量は904トン、総水揚金額は6億9,276万円でした。1統当り漁獲量(以下、CPUE)は301トンで平年並み、水揚金額は2億3,092万円です。前年を26%上回りました(平年値:305トン、1億8,336万円)。

### ソウハチ、ムシガレイとも平年を下回る

主要魚種であるソウハチのCPUEは16.6トンで前年並み、平年を下回りました(前年の1.0倍、平年の9割)。ムシガレイのCPUEは18.7トンで、減少傾向が続いていた前年から上向きに転じましたが、平年を下回り、依然として低調な漁獲が続いています(前年の2.0倍、平年の7割)。ヤナギムシガレイのCPUEは8.2トンで、前年・平年並みでした(前年の1.1倍、平年の1.0倍)。

### ケンサキイカは低調、ヤリイカは好調

ケンサキイカのCPUEは6.8トンで、前年を上回りましたが、平年を下回りました(前年の1.4倍、平年の6割)。一方、ヤリイカのCPUEは26.5トンで、前年・平年を上回り、平成6年漁期以降で過去最高を記録した令和2年漁期(26.6トン)に並ぶ、好調な水揚げとなりました(前年の2.5倍、平年の3.5倍)。

### アカムツ、アンコウ類は好調、キダイは平年を下回る

アカムツのCPUEは令和4年漁期以降減少傾向でしたが、今期は37.5トンで前年・平年を上回りました(前年の1.9倍、平年の1.2倍)。アンコウ類のCPUEは30.2トンで前年・平年を上回り、減少傾向が続いていた前年から上向きに転じました(前年の2.3倍、平年の1.6倍)。一方、キダイのCPUEは29.1トンで、前年・平年を下回りました(前年・平年の7割)。ニギスのCPUEは1.8トンで平年の7割、アナゴ類のCPUEは27.4トンで平年並みの水揚げでした。

その他、マダイは令和4年漁期以降安定的に漁獲されていましたが、今期のCPUEは12.5トンで前年・平年を下回りました(前年の6割、平年の9割)。また、マダラのCPUEは26.5トンで前年の1.4倍、平年の2.4倍と前年に引き続き好調な水揚げでした。

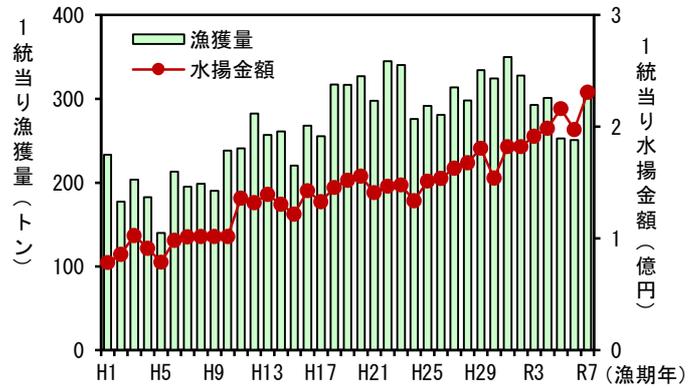


図3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当り漁獲量と水揚金額の動向(各漁期年の8月~12月)

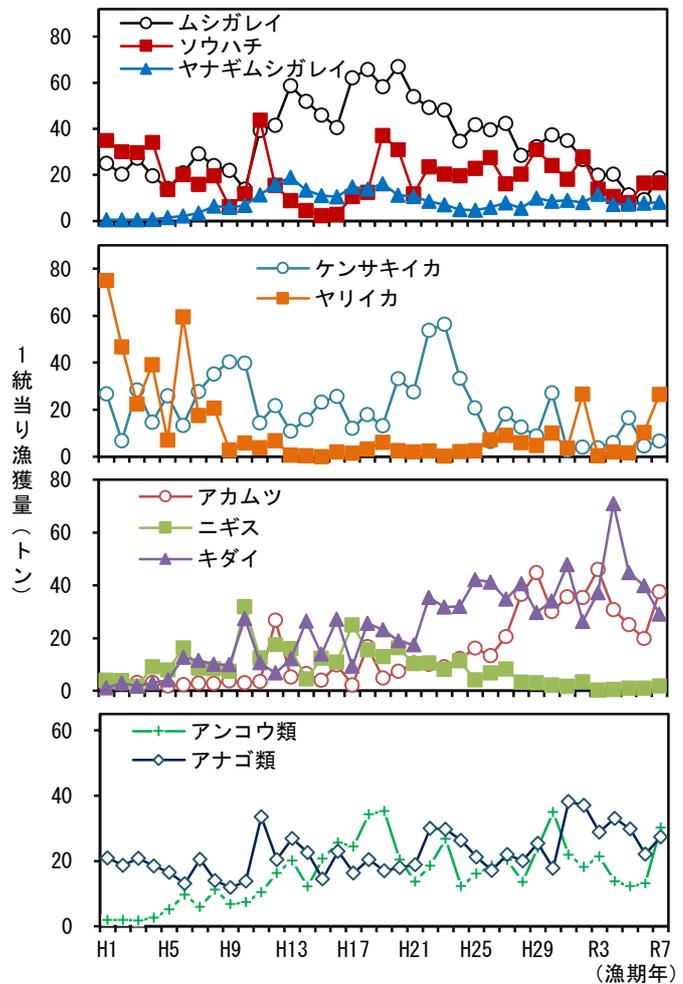


図4 浜田漁港を根拠地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(各漁期年の8月~12月)